

# データ収集用紙 ver.1

REDCap RecordID:	

# 患者・手術情報

記載者:	麻酔開始時刻:時分( <sup>24時間表記</sup> )
カルテI D:	身体:cmkg (g)
日付:202 年 月 日	<sup>1kg 以下の場合はg表記</sup> 施設名:あいち小児
年齢:歳ヶ月	性別:男・女・性別不明
場所: <u>手術室</u> ・ <u>手術室外カテ室</u> ・ <u>CT/MR</u>	II/放射線治療室・ <u>病棟</u> ・その他
✓ 術前合併症 (複数選択可) □ 該当なし	□ 循環動態不安定 (ショック、CPR)
□ 術前呼吸管理 (複数選択可)	□ 先天性心疾患既往
□ 州前呼吸管理 (複数選択可) □ 既挿管 経口挿管 □ 既挿管 経鼻挿管 □ 既挿管 気管切開 □ 経鼻・経口エアウェイ □ 酸素投与 (経鼻カニューラ・酸素マスク・リザーバー付き酸素マスク) □ HFNC □ 人工呼吸(NPPVを含む) □ ECMO/VAD □ 低酸素血症 (SpO₂ < 95% 室内気) □ 複数回の無呼吸発作と徐脈 □ 上気道狭窄または閉塞 (鼻から声帯まで) □ 活動性の上気道感染 (発熱>38.0°C/咳嗽/鼻汁/喀痰/聴診音異常) □ 過去14日以内の気道感染兆候 (但し麻酔導入時に症状がない) □ 喘息 (1ヶ月以内の発作もしくは1年に3回以上の発作) □ 喉頭軟化症 □ 気管軟化症 □ 声帯麻痺 □ 気管狭窄 (声門下狭窄も含む) □ 嘔気や嘔吐	<ul> <li>一 先天性心疾患既往</li> <li>一 肺高血圧症 (術前・術中診断で平均肺動脈圧&gt;25 mmHg)</li> <li>一 筋力低下の診断 (脳性麻痺の拘縮症例を含む)</li> <li>一 気道反射の消失 (咳嗽、咽頭反射の消失)</li> <li>一 低出生体重児 (1500 g ≤ 出生時体重 &lt; 2500 g)</li> <li>一 極低出生体重児 (1000 g ≤ 出生時体重 &lt; 1500 g)</li> <li>一 超低出生体重児 (出生時体重 &lt; 1000 g)</li> <li>一 早産児 (28週 ≤ 出生週数 &lt; 37週)</li> <li>一 超早産児 (出生週数 &lt; 28週)</li> <li>一 過期産児 (42週 ≤ 出生週数)</li> <li>一 食物または薬剤アレルギー (摂取制限を実施している)</li> <li>一 アレルギー性鼻炎 (鼻汁や鼻閉のいずれかがあれば該当)</li> <li>一 アトピー性皮膚炎</li> <li>一 同居家族の喫煙</li> <li>一 その他</li> </ul>
<ul> <li>✓手術種類 (複数選択可)</li> <li>□ 脳神経・脳血管</li> <li>□ 胸腔・縦隔</li> <li>□ 心臓・血管</li> <li>□ 胸腔腹腔</li> <li>□ 上腹部内臓</li> <li>□ 下腹部内臓</li> <li>□ 帝王切開</li> <li>□ 頭頸部</li> </ul>	□ 咽頭・喉頭部         □ 胸壁・腹壁・会陰         □ 脊椎         □ 股関節・四肢         □ カテーテル検査・治療         □ その他検査 (内視鏡検査・治療を含む)         □ 移植 (心・肺・肝・腎・膵・小腸)         □ その他
<ul><li>✓ 術中体位 (複数選択可)</li><li>□ 仰臥位 (半側臥位を含む)</li><li>□ 腹臥位</li><li>□ 側臥位</li><li>□ 砕石位</li></ul>	□ 頭高位 □ 頭低位 □ その他

## 麻酔情報

✓ 絶飲食			<b>✓</b> ASA-PS分類							
 ○ 遵守	○ 遵守していない		○ 1 ○ 1E 合併症なし							
	よいる。中半		○ 2 ○ 2E 軽度の全身:	疾患を	有する	るが日	常生活動作は正	常		
✓胃内容物則			○ 3 ○ 3E 高度の全身	疾患を	有する	が運	動不可能ではな	としい		
○なし	○あり		○ 4 ○ 4E 生命を脅か	す全身	疾患を	を有し	、日常生活は不	可能		
✓初回コース	く開始前の胃内	]吸引	○ 5 ○ 5E 瀕死であり。	手術を	しても	あ助か	る可能性は少な	としい		
<ul><li>○ 未実施</li></ul>			○ 6 ○ 6E 脳死状態の	臓器移	植ドナ					
<b>人</b> 结转中的 <i>0</i>			*緊急手術の場合はEがつ	く番号	をチ:	ェック	する			
<b>✓</b> 鎮静目的@	-									
	○ミダゾラム		<b>√</b> 染色体異常							
() シアセバム	○ その他の鎮静薬		<u>▼ 木 口 杯 共 市</u> ○ なし	(	<b>\ 21</b>	K III	ノミー			
✓困難気道症	亡促群		○ 36 ○ 13トリソミー			トリン				
<u> </u>	<u> </u>		○ 13ドラクミ   ○ 上記以外の染色体異常	(	) 10	トノノ	<i>'</i> ~			
<ul><li>○ なり</li><li>○ あり (困難気道症(</li></ul>										
<ul><li>○ あり (凶無気道症)</li><li>○ その他の疾患に言</li></ul>										
	西 (複数選択可)									
□ 該当なし			□ 上気道狭窄/喉頭展開困		≟う解	剖学的	] 異常			
□ 術前に困難気道が			□ 中顔面の低形成があった							
□困難気道の既往あ			□ 巨舌があった							
	)(鎮静薬/筋弛緩薬投与に	関わらず)	□ 小顎があった							
□ 開口が2横指以下			□ 頭囲の病的拡大があっ	た						
	距離が2横指以下 (患者	の指で)	□ その他							
✓マスク換気	<u> </u>									
○ なし ○ ā	あり ○ 該当な	し (マスク換気施行せず	)							
*専門医以上の麻酔	科医が最大限の努力を行って	ても、換気が困難(不十分	♪な胸郭挙上、一回換気量<5 ml/k	ίg、カブ	゚ノグラ	ム第Ⅲ	相の欠落)な症例			
✓麻酔導入力	法									
	<u>3724</u> 乎吸なし (吸入麻酔による	)	○ 迅速導入 (陽圧換気なし)	*縇静薬	と筋弛	緩薬を	同時に投与			
	乎吸温存 (吸入麻酔による		<ul><li>○ 迅速導入 (陽圧換気あり)</li></ul>							
	乎吸なし (静脈麻酔による		○ 覚醒下、局所麻酔薬の		/3/3 5 C		3.5.5.5.2			
	乎吸温存 (静脈麻酔による		<ul><li>○ その他</li></ul>							
	·	~13.5 (3.7)								
✓ 使用薬剤	<u>(複数選択可</u> )									
	導入 術中 術後						PACU			
セボフルラン			ミダゾラム							
デスフルラン 笑気			プロポフォール							
大文			チオペンタール / チアミラール レミマゾラム							
フェンタニル			ケタミン							
塩酸モルヒネ			デクスメデトミジン							
レミフェンタニル										
			アトロピン							
ロクロニウム			アドレナリン							
ベクロニウム			リドカイン (気道内散布)							
スキサメトニウム スガマデクス			リドカイン (静注)							
<i>/////////////////////////////////////</i>			2				次に続く	$\rightarrow$		
			_				クイトールにノ	,		

## 気道確保試行情報

✓ コース情報 試行合計回数								
コース     導入     術中     術後     PACU     試行回数     直前SpO2       I     □     □     □     □     %       II     □     □     □     □     %       IV     □     □     □     □     %       V     □     □     □     %	最低Sp0	6 6 6 6						
✓ コース開始の原因 (複数選択可)			ı	11	111	11.7	V	
予定通りの挿管、気道・循環トラブルに起因しないコースの開始・	変更		 		III	IV	V	
抜管後の気道トラブル								
SpO <sub>2</sub> 低下 (5%以上の低下・気道管理での問題に起因する低下)								
呼吸停止に伴う気道確保								
気道管理器具 (例:気管チューブ)のずれや事故抜去								
気道管理器具の閉塞 気道刺激の忌避目的 (挿管から声門上器具への変更など)								
気道確保器具周囲のエアリーク			_ _					
誤嚥の予防 (嘔吐・上気道出血・口腔内分泌物)			_					
喉頭浮腫								
喉頭痙攣 (胸郭および腹部の筋硬直を伴う気道閉塞)								
気管支攣縮 (喘息発作)								
直接的な気道外傷								
無気肺の形成・リクルートメント								
肺水腫								
吸痰目的 気胸または縦隔気腫								
不安定な循環動態 (ショックや不整脈を含む、但し心停止を含まな	1.11							
心停止	. • • • •		_					
その他			_ ]					
各試行における気道確保情報(回目)	1	2	3	4	5	6	7	8
挿管者施行者の割り付け番号 (数字を記入)								
気道管理成功の有無								
成功	0	0	0	0	0	0	0	0
失敗 (声門が見えなかった)	0	0	0	0	0	0	0	0
(循環が不安定) (上気道狭窄、酸素化障害)		0	0		0	0	0	0
(上丸道狭窄、酸素化厚音) (声帯より近位で気道管理デバイス挿入困難)			0	0	0	0	0	0
(声帯より近位で気道管理デバイス挿入困難)							0	0
(エアリークが多かった)			0					
(その他)	0	0	Ö	0	0	0	0	0

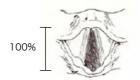
3

裏へ続く→

各試行における気道確保情報	(回目)	1	2	3	4	5	6	7	8
気道確保者 (麻酔症例の割合は直近1年の症例を全体とする)									
初期研修医		0	0	0	0	0	0	0	0
後期研修医 (麻酔科) *専門医資格なし		0	0	0	0	0	0	0	$\circ$
(麻酔科以外)		0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科専門医 (麻酔症例の>80%が小児)		0	0	0	0	0	0	0	0
(麻酔症例の50-80%が小児)		0	0	0	0	0	0	0	0
(麻酔症例の<50%が小児)		0	0	0	0	0	0	0	0
救急科専門医		0	0	0	0	0	0	0	0
集中治療専門医			0	0	0	0			0
その他の専門医			0	0	0	0	0	0	0
その他 (例:周麻酔期看護師など)		0	O	0	0	0	0		0
気道確保施行者の卒後年数									
1年目		0	0	0	0	0	0	0	0
2年目		0	0	0	0	0	0	0	0
3年目		0	0	0	0	0	0	0	0
4年目 5年日		0	0	0	0	0	0	0	0
5年目 6-9年目		0	0	0	0	0	0	0	0
10年目以上									
			0	0					
気道確保の経路									
経口挿管 (声門上器具使用を含む)		0	0	0	0	0	0	0	0
経鼻挿管 気管切開口		0	0	0	0	0	0	0	0
スピッ用ロ その他 (輪状甲状間膜穿刺・切開を含む)		0	0	0	0	0	0	0	0
気道確保器具   該当するものをすべてチェックする									
喉頭鏡   東田 - 1   1   1   1   1   1   1   1   1   1									
声門上器具のみ スタイレット									
ベッイレット   ビデオ喉頭鏡ーガイドなし									
(例:マックグラス、グライドスコープ、C-MAC)									
ビデオ喉頭鏡ーガイドあり (例: エアウェイスコープ)									
ビデオのない非直達喉頭鏡 (例: ビデオなしのエアトラック					I		lп		
ェーレス ノロソス いそロウ 注册を現現し物 しと エオ なしのエアトラック	)								
	)								
	)								
ガムエラスティックブジー	)								
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他)									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q)									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他)									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q)									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q) その他									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q) その他 気管チューブまたは声門上器具のサイズ									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q) その他 気管チューブまたは声門上器具のサイズ 0.5-8.5の数値で記入 (0.5刻み) 該当せず (ダブルルーメンチューブなど)									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q) その他 気管チューブまたは声門上器具のサイズ 0.5-8.5の数値で記入 (0.5刻み)									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q) その他 気管チューブまたは声門上器具のサイズ 0.5ー8.5の数値で記入 (0.5刻み) 該当せず (ダブルルーメンチューブなど) 気管チューブの種類									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q) その他 気管チューブまたは声門上器具のサイズ 0.5ー8.5の数値で記入 (0.5刻み) 該当せず (ダブルルーメンチューブなど) 気管チューブの種類 ノーマル									
ガムエラスティックブジー 軟性気管支鏡 気管切開孔からの気管/気管切開孔用チューブの留置 外科的気道確保 (輪状甲状間膜穿刺・切開) 外科的気道確保 (気管切開) 外科的気道確保 (その他) 声門上器具越しの気管挿管 (例: Air-Q) その他 気管チューブまたは声門上器具のサイズ 0.5ー8.5の数値で記入 (0.5刻み) 該当せず (ダブルルーメンチューブなど) 気管チューブの種類 ノーマル スパイラル									

各試行における気道確保情報(回目)	1	2	3	4	5	6	7	8
気管チューブのカフの有無								
なし   あり	0	0	0	0 0	0	0	0	
気管チューブ以外 (声門上器具や気切など)	0	$\circ$						
クリコイドプレッシャーの有無								
なし あり	0	0	0	0	0	0	0	0
外部喉頭操作の有無 (喉頭展開視野の改善目的) なし あり	0	0	0	0	0	0	0	0
Apneic oxygenationの有無 (流量は <2歳 : 4 L/min, 2 - 11歳 : 6 L/min, ≥12歳 : 8 L/min以上とする) なし あり	0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0	0
POGO score (喉頭展開時の声門の展開率:前交連から披裂間切痕を100%とする) 0-100%で記入 (1%刻み) 該当せず (喉頭展開をしていないなど)						%		

POGO score







Cormack -Lehane分類

Grade I

Grade II

Grade III

### ✓ コース中の合併症 (複数選択可)

	I	II	III	IV	V
なし					
心停止(患者生存)					
心停止(手術終了から48時間以内の死亡)					
喉頭痙攣 (胸郭および腹部の筋硬直を伴う気道閉塞)					
上気道閉塞 (呼吸努力を伴う上気道閉塞)					
著しい咳込み (10秒以上継続)					
気管支挿管					
食道挿管 (SpO₂低下を伴わない)					
食道挿管 (SpO₂低下を伴う)					
嘔吐 (誤嚥なし)					
嘔吐 (誤嚥あり) *胸部レントゲン等で確認されたもの					
低血圧 (介入が必要、例:昇圧薬、補液 *但し薬剤投与に起因する低血圧は除く)					
高血圧 (介入が必要、例:降圧薬 *但し薬剤投与に起因する高血圧は除く)					
歯牙損傷					
気胸または縦隔気腫					
気管支攣縮 (喘息発作)					
無気肺の形成 (例:胸部レントゲンで確認できたもの)					
肺水腫					
吸気性喘鳴 (ストライダー)					
直接的な気道外傷					
不整脈 (徐脈を含む *但し薬剤投与に起因する不整脈は除く)					
気道管理器具 (例:気管チューブ)のずれや事故抜去					
その他					

#### ✔ コース中の合併症への治療 (複数選択可) $\parallel$ Ш IV ٧ なし 鎮静薬の投与 筋弛緩薬の投与 術後挿管管理 (予定外のみ) 気管支拡張薬 気管内吸引 CPAPおよび/または陽圧換気 アドレナリン投与(吸入) ステロイド投与 (静注) 外科的気道確保 (例: 気管切開/輪状甲状間膜穿刺・切開) $\Box$ П П П 除細動/カルディオバージョン アドレナリン投与(静注) アトロピン投与 循環作動薬投与 (静注) \*アドレナリン、アトロピン以外 補液 抗不整脈薬投与 П $\Box$ 胸骨圧迫 (心肺蘇生)

П

## ✔術後麻酔回復室(PACU)での観察

体外循環 (Extracorporeal membrane oxygenation: ECMO)

リバース薬投与(例: スガマデクス、フルマゼニル、ナロキソン)

集中治療室入室 (気道管理の合併症に伴う予定外の入室のみ、但し経過観察入室を含む)

○なし

利尿薬投与

その他

○あり

#### 困難気道症候群の例

咽後膿瘍 Apert症候群 ガングリオシド蓄積症 Beckwith-Wiedemann症候群 血管輪 Cornelia de Lange症候群 喉頭蓋炎 Crouzon症候群 後鼻孔狭窄/閉鎖 Freeman-Sheldon症候群 縦隔腫瘍 Goldenhar症候群 Hallermann-Streiff症候群 上/下気道内腫瘤 糖原病 Klippel-Feil症候群 軟骨無形成症 Pfeiffer症候群 脳瘤 Pierre Robin sequence 表皮水疱症 Russell-Silver症候群 扁桃周囲膿瘍 Saethre-Chotzen症候群 ムコ多糖症 Smith-Lemli-Opitz症候群 Treacher Collins 症候群

Turner症候群

Waardenburg症候群